

経皮的テストステロン補充は poor ovarian responders の採卵数を増やすか？

井上朋子 貫井李沙 寺脇奈緒子 小宮慎之介 浅井淑子 姫野隆雄 森本義晴
HORAC グランフロント大阪クリニック

抄録

【目的】 不妊患者の高齢化に伴い、卵巣予備能が低下した poor ovarian responders (POR) の治療に苦慮することが多いが、このような患者への経皮的テストステロン補充療法が注目されている。我々も、日本人不妊患者の多くは血中テストステロン値が低く、テストステロン経皮投与によりホルモン動態の改善がみられることを以前に報告したが、実際に本治療により体外受精成績が向上するのか検討した。

【方法】

テストステロン補充療法の対象者は、ESHRE の基準で POR と診断され、血中テストステロンが高くない患者とした。テストステロン軟膏（グローミン；大東製薬工業株式会社）を採卵前周期から前腕に 1 日 1.5mg 塗布した。卵巣刺激は基本的に経口剤を中心とした低刺激法を用い、主席卵胞径が 17mm に達した日に HCG を投与し、36 時間後に採卵をした。薬剤投与前後のテストステロン値および採卵数を Wilcoxon 検定で比較した。

本研究は院内倫理委員会で承認され、患者からは事前にインフォームドコンセントを得た。

【結論】

経皮的テストステロン補充の開始前と開始後に当院で採卵を実施している患者は 23 名で、年齢は 40 ± 3.59 歳であった。これらの患者の AMH は、 0.65 ± 1.26 ng/mL（中央値 0）であり、補充前の血中テストステロン値 0.11 ± 0.12 ng/mL から投与後は 0.38 ± 0.23 ng/mL と優位に上昇した ($p < 0.0001$)。テストステロン投与前の採卵時獲得卵子数は、平均 1.91 ± 2.8 個であり、テストステロン投与後は平均 3.17 ± 5.16 個であったが、卵子数については統計的有意差がなかった ($p = 0.055$)。これらの患者のうち 2 人が生産に至り 1 人が妊娠継続中である

【考察】

経皮的テストステロン投与後血中ホルモン値は上昇したが、獲得卵子数の増加は明らかではなかった。ただし今回対象とした POR 症例の自然経過を考慮すれば、採卵回数を重ね年齢が上昇する中で、採卵数が減らず漸増傾向にあったことはテストステロン投与の効果を全く否定するものではないと思われる。